

第 14 回 杜春会東京の集い 2018.11.2

森本 和人 (杜春会副会長・29 回生)

秋の爽やかな空が抜けるようなこの日、2 年に一度の東京の集いが開催されました。

前回初めて独立させて実施して好評だった講演会は 17:30 から「華厳の間」。17 時過ぎから受講者が集まり始めます。約 50 人の出席を頂き、定刻通り講師の 44 回生飛ヶ谷潤一郎先生による講演『近代和風建築とは何か：小倉強先生設計の佐藤家住宅を中心に』がスタート。

はじめに「近代建築」について、時間的、地域的な観点からの概観。小倉強先生の経歴の紹介がありました。先生は仙台二校出身で、昭和 25 年から 30 年まで東北大学の建築学科の初代教授を務められました。伊東忠太氏や佐野利器氏に目をかけられたとのこと。大河原町の佐藤家は代々「源三郎」を襲名する地元の名士。明治時代に建てられた表門や店蔵から小倉先生が設計を手掛けられた邸宅まで、次々と建て加えられていった様子に当時の栄華が忍ばれます。稲荷や小祠など、信心に通じる建造物も多いようで、安寧を願う思いも伝わってきます。歴研といえば宮城の古民家と思いが至る印象もあるのですが、その一端を垣間見た思いがしました。さすがは現役教官、時間ピッタリに講演をまとめて下さった飛ヶ谷先生に御礼申し上げ、懇親会場「瑞雲の間」へ。約 90 人が揃い 18:30 に開宴。

今回は 36 回生佐藤克久さんと野島正人さんのダブル司会。二人とも声の通りがいい。

長年総務を務めてくださっている 35 回生木下定さんによる開会宣言。今回も杜春会からありがたく祝金の支援があったことを紹介頂きました。

続いて植松杜春会会長から挨拶を頂きました。3 泊 4 日の台湾出張を早めに切り上げられての出席に、日々の多忙を想像します。昨年 6 月に本学が指定国立大学法人となったこと。他校と比べると同窓会のつながりが弱いといわれるなか、都市・建築学専攻科として 11 月 10 日に第 3 回交流会を予定していること。そのほか会長として日々感じておられることを、先生らしい飾らない言葉でご紹介頂きました。

次に専攻長である五十嵐太郎先生から祝辞を頂きました。先生もコンペの審査員として慌ただしい日であったところ、それを終えて駆けつけて下さいました。近年本学の傾向として女子比率がおおむね現役、修士課程、博士課程それぞれ 1/4、1/3、1/2 と増えてきていること、また外国人の進学希望が急増していることなどの紹介がありました。会場睥睨して、「自分の教え子が少ないようだ。」と。東京としてもぜひ先生の教え子との交流を楽しみにしたいところです。

続いて新旧恩師のご紹介。今回もご多忙の中 11 人の歴代・現役教官の方々に出席を頂きました。ここでは逐一お名前を挙げませんが、改めて御礼申し上げます。

今回も先生方を代表して和泉正哲先生からご挨拶を頂きました。88 歳を迎えられた今でも講演や本の執筆などにお忙しい日々を過ごしていらっしゃるとのこと。「72 歳まではしっかり働き。84 歳までは社会、家族に迷惑をかけるな。で、96 で PPK だ。君たちはもっと

長生きするから 100 歳だ。」「今は人生で一番豊かな経験を積んだ瞬間であり、同時に将来に向けては最も若い瞬間だ。今日を大事になさい。」いつまで経っても心に沁みいるお言葉でした。

定刻より 5 分ほど早く、和泉先生の教え子としては、現役の最後のそれに該当するという飛ヶ谷先生のご発声で乾杯唱和して歓談の時間へ。今回も年次を越えた交流を狙って、就くテーブルを新旧会員混合とさせて頂きました。あちこちで互いの名札を見たり、名刺の交換をしながら会話が弾みます。会場和やかななか、前回以降 2 年の間に新卒された 3 人、63 回生で平成 29 年修了谷口洵さん、65 回生大内裕美子さん、平成 30 年修士課程修了の金箱彰さんを紹介し、それぞれ一言を頂きました。このような若い方々の輪がますます広がっていくことを願ってやみません。次にプログラムにはなかったのですが、奥様とともに仙台から駆けつけて下さった 8 回生で株式会社関・空間設計名誉会長である関信男様からお言葉を頂きました。関さんのポート部後輩が、和泉先生の追試を 2 度にわたって落第、このままでは就職もできなくなることを案じて先生に談判に行かれた話を披露頂きました。関様の仙台を想像させる語り口に、一同破顔しないものはおられません。ただ、和泉先生にも当然言い分はあるはずで、思えばマイクを先生にもむけるべきでした。

宴も後半。会話の盛り上がりに加えて、今回も抽選会を実施しました。2008 年まで川内キャンパスの第二食堂で「貧食（ひんしょく）」と呼ばれて人気メニューだったカレーの復刻レトルト 3 個をワンセットとして 5 人分を用意しました。買い付けは杜春会事務局牡丹すみ子さんにお願ひしました。牡丹さんには、今回も会に欠かせない名札の用意や、会場での受付など、再び大変お世話になりました。35 回生青山睦さんに進行を委ね、抽選者を柴田明德先生にお願ひしました。柴田先生も和泉先生に負けずお元気そうで、快く引き受けて下さいました。抽選箱に入れた会員各自の名札を先生に引いて頂くシンプルな方法。当選者は以下の通りです。23 回生瀬田恵之さん、31 回生佐武直紀さん、38 回生宮腰淳一さん、44 回生藤橋一紀さん。構造系が続き、ひとりくらいは計画系が当たってもいいでしょう、という青山司会者の言葉をよそに、最後に引き当てたのは和泉先生。引き当てる柴田先生といい、当たる和泉先生といい、何か持ってますね。

引き続き懇親を頂きましたが、これもプログラムになかった 1 回生の重倉祐光様からご挨拶を頂きました。御齡を申し上げなくても会員は自分の年次から計算がすぐできますが、和泉先生とほぼお変わりがない。ご略歴などもご紹介頂きましたが、諏訪東京理科大学の学長も歴任なされたとのことで、栄えある先輩に感動を新たにしました。

いい時間はあっという間。今回写真撮影を担当頂いた 35 回生皆川典久さんから、これまで東京の特別企画 10 回実施したうち 9 回引っ張ってくれた「街・スリバチ歩き」の次回来年 3 月 9 日北鎌倉の回の予定もアナウンス頂いたあと、全員で集合写真を撮りました。会のひとつの形が記録に残ります。

最後に 32 回生織茂俊泰さんの指揮で、学生歌「青葉もゆるこのみちのく」を全員で 3 番まで斉唱しました。出だしこそタイミングに戸惑いがあったものの、テンポは身について

いるそれよりもゆったりと遅く、実に朗々としたものがありました。

最後に副会長で首都圏担当の森本から閉会の挨拶を差上げました。学生歌の3番すべてに共通する「さらば」と「友よ」は、また会うことを含意しているように聞こえること、90人の参加者のうち、先生方が11人などという恵まれた会はそうはないこと。若い方々にしっかり伝承していくべく、会員の皆さんのなお一層のお力添えをお願いして御礼とともに会を閉じました。

最後に、本会にご協力頂いた杜春会本部、事務局、東京の担当役員、そして全ての皆様に厚く御礼を申し上げます。(於：ホテルメルパルク Tokyo)



講演会



植松会長の懇親会挨拶



会の終わりに 全員の集合写真